



1

社会保障論 (森 健一教授)

- ◇経済の二重構造 → 戦後日本経済における基本的特徴
- ◇社会政策論争=大河内(労働政策)vs服部・岸本論争(労働力保全)  
→1952(昭和27)年考橋正一・岡村重夫らによる社会福祉本質論争に展開
- ◇強者の理論 → 上から目線の薄っぺらさを学んだ機会だった

↓

これ以降、誰にとって何のための「福祉」なのかを考える基底となる。

4

4

サワコの朝 (MBS毎日放送) 風にいえば

サワコ朝の朝

今でも記憶に残っている曲

↓

1972(昭和47)年 21歳の時に聴いた一曲

2

人生三度の「自己選択・自己決定」

常に教育との関わりがあった

5

5

岡林信康『山谷ブルース』1969(昭和44)年

きょうの仕事はつらかった あとは焼酎をあおるだけ  
 どうせ、どうせ山谷のどき住まい ほかにやる事ありやしねえ  
 一人酒場で飲む酒に かえらぬ昔が懐かしい  
 泣いて泣いてみたってなんになる 今じゃ山谷が ふるさとよ  
 工事終われば それっきり お払い箱の おれ達さ  
 いいさいいさ 山谷の立ちん坊 世間うらんで なんになる  
 人は山谷を 悪く言う だけど俺達 いなくなりや  
 ビルもビルも道路も出来やしねえ 誰も解っちゃくれねえか  
 だけど俺達や 泣かないぜ 働く俺達の 世の中が  
 きっときっと来るさそのうちに その日にや泣こうぜうれし泣き

🔊

3


第一の自己選択・自己決定

6

6

1969(昭和47)年4月  
東北学院大学経済学部二部経済学科に通う(21歳)

- ・通信教育での学びに挫折し、北上町十三浜字白浜(現石巻市)から通学
- ・社会保障論、社会政策論に出会う
- ・就学免除規定に強い疑問→教育委員会に「教育効果」について直談判
- ・自分の振る舞いを考えるとき「地の塩 世の光」を意識するようになった。



7

1996(平成8)年4月  
東北学院大学大学院人間情報学研究所入学(45歳)

2000(平成12)年4月  
東北大学大学院文学研究科社会学専攻分野編入学(49歳)

- ・自分なりの社会貢献を考えた(自分の学びを下にして社会に役立つ役割を担う)
- ・宮城県庁健康対策課で決裁権(係長)を持つようになり、大学院修士課程に進学
- ・長寿社会政策課在任中、高齢者福祉の現状に疑問を持ち、大学院博士課程に編入学

10

7

10

森 健一 教授 斎藤義博 教授

↓

社会保障論、社会政策論を学び、  
福祉(welfare)への知的好奇心を高める機会になりました。

8

東北学院大学大学院：斎藤吉雄教授 佐久間政広教授 遠藤恵子教授  
東北大学大学院：長谷川公一教授 永井 彰教授

↓

社会学(Sociology)を学び  
社会的相互作用・役割理論を福祉(welfare)へ展開する術を  
身に付ける機会になりました(福祉社会学)。

11

8

11

第二の自己選択・自己決定

9

◇修士論文  
1998(平成10)年 『デイサービスの効果に関する研究』(東北学院大学)

◇博士論文  
2011(平成23)年 『社会関係の再構築としてのケア改革』(東北大学)


↓

- ・Zarit 介護負担尺度を使って高齢者と介護家族の関係性を説明
- ・アタッチメント理論(John Bowlby)を高齢者に適応
- ・社会的相互作用(Social interaction)をケアに生かす
- ・役割理論(role theory)を自己実現に生かす

12

9

12



シンボリック相互作用論  
ハーバート・ブルマー  
小島重雄訳

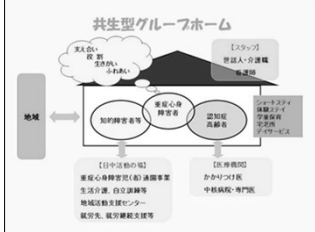

Goffman, E., 1961. *Asylums: Essays on the Social Situation of Mental Patients and Other Inmates*, New York: Doubleday & Company. (=1984, 石黒毅訳『ゴッフマンの社会学 3 アサイラム—施設被收容者の日常生活』誠信書房.)

13

行政に学びを生かす 其二

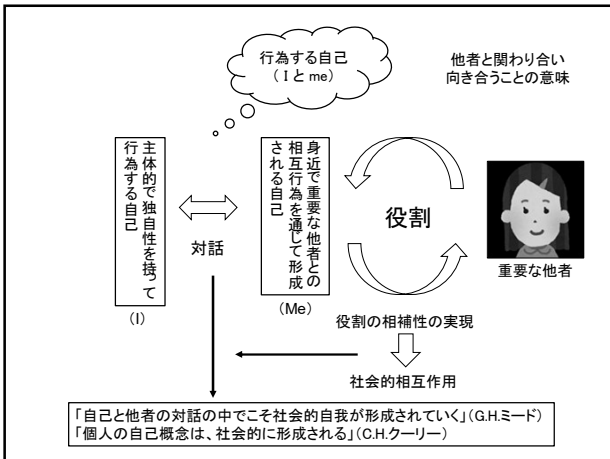
◇共生型グループホーム

- ・認知症高齢者と知的障害者・重度心身障害者(大島分類3)の共同生活
- ・全国初の実用レベルの事業展開モデル構築(介護保険+支援費制度の適用)
- ・AD国際会議京都大会で研究発表(世界に無い事例と高く評価される)
- ・障がい者の高齢化対策→制度を超えた住まいの確保

地域共生社会の具体的姿を示し障がい者の地域生活に関する問題提起を行う。

16



行政に学びを生かす 其三

◇特別養護老人ホームのユニット化による「我が家」づくり

- ・全国初の県単独補助事業創設→改修型ユニットケア特養の増加
- ・ケア改革が一気に進む→三大介護から生活支援への転換
- ・地域住民参加による施設(我が家)づくりの波が興る

↓

- ・社会的相互作用(Social interaction)、役割理論(role theory)でケア改革を進める
- ・要介護者→地域生活者=特養(施設)から我が家(別宅)への転換を促す
- ・県民の目を肥えさせる取り組み→特養(施設)を特別な空間にしない(近隣の集合住宅)

17

行政に学びを生かす 其の一

◇老人デイサービスの普及及びその場を活用した歯科検診

- ・全国初の実用レベルの事業
- ・厚生白書に事例として掲載される
- ・誤嚥性肺炎の低減、意欲の増進、家族の関係性向上等々を実証

↓

- ・「アタッチメント理論」(John Bowlby)→「心の安全基地」を高齢者に広げる
- ・Zarit介護負担尺度を使い、介護家族の負担感の発生元を説明
- ・老人デイサービスの効果を科学的に説明し、市町村にその必要性を訴える

15

- ・地域の福祉力、住民は大切な人財、市民的専門性の気づき
- ・介護施策(介護保険施設)を住宅施策(高齢者のもう一つの我が家)へ
- ・「住み慣れた地域で暮らし続ける社会」の実現に対する提案




住民参加型の施設(特別養護老人ホーム)づくり

18

第三の自己選択・自己決定

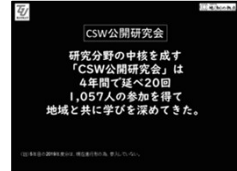
19



2018-11-30コーディネータが走る



2018-10-19災害公営住宅自治会活動



22

2011(平成23)年4月

被災地南三陸町に行政ボランティアとして赴く

2016(平成28)年2月

東北学院大学特任教授に就任

- ・公務員及び大学院での学びの全てを傾注した被災者支援／地域福祉の推進
- ・役割理論及び社会的相互作用理論を現場に落とし込んだ実践
- ・市民的専門性の確信(地域住民の人財化・資源化)
- ・「地域の福祉力」と「福祉の地域力」の合力(協働)による地域福祉の推進
- ・地域社会を土台にして、理論(学問)と実践(現場経験)を融合した授業の展開

20

20



土樋町内会敬老お食事会



キャンパス



スマホ教室



映画鑑賞会(人生フルーツ)

23



ただひたすら、住民と共に係る難局に取り組んだ

21



地域の課題Ⅱ(聞き書き)



地域課題演習  
オンラインタイム授業



南三陸町長へ学修成果の報告



富谷市長へ学修成果の報告

24

◇学生は、近年に例のない新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が猛威を振るい、様々な社会生活が制限を受けるというコロナ禍において、戸惑いながらも学ぶ姿勢を持ち続けました。

◇彼等は、パソコン画面を毎日何時間も見続ける授業環境を強いコロナ禍からも、自分自身を見つめ直し自分の生き方と向き合っています。

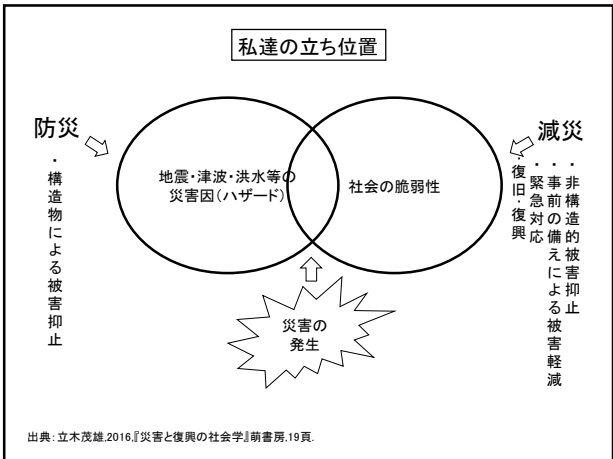
◇「与えられた環境に適応する様に努力した」「もがく努力を惜しまなかった」「自分を見つめる機会が増え、内省的向上心を自覚した」「自分は周りとの関わりの中で成り立っていることを改めて知った」「今有るものだけでなく、他の選択肢も探すようになった」等々。

◇コロナ禍にあっても、ただ腕組みをして、この難局が通り過ぎるのを待っているのではなく、そこから大人としての生き方や対処の在り方を、苦しみもがきながらも学んでいる。

◇私は、こうした学生と、共に学び、時を共有してきたことに、感謝すると共に、こうした学生の教員であることに誇りを持ちたい。

25

25



28

◇私が考える教育とは、学生が我が事として地域課題を発見し、解決の為の資源を見だし、それを大学での学び(専門領域)と、自分自身の興味・関心で加工し、地域に軸足を置いた、学生オリジナルの提案を行う。

◇こうした学生の学びに対して、教員と地域の方々と一緒に励ます環境がその学びを支える。そうした一連の過程を「教育」と考えている。

◇このような視点で教育を捉えたとき、それを可能にする「教材としての地域」はそう多くはない。我々教員の最も大切な役割は、この教材を見つけ、そこに学生を立たせることにある。

◇学生の感性、知的好奇心、それらを地域というリアルとの相互作用の中で引き出す。ここに、教育の醍醐味とやりがいを感じ来た。

26

- 震災から10年を経たの学びを生かす**
- これから求められる振る舞いの有り様 —
- 新たな生活様式の構築(関係性の再構築)
  - 伝承(知恵を繋ぐ)
  - 福祉文化の創造(学びの一般化)

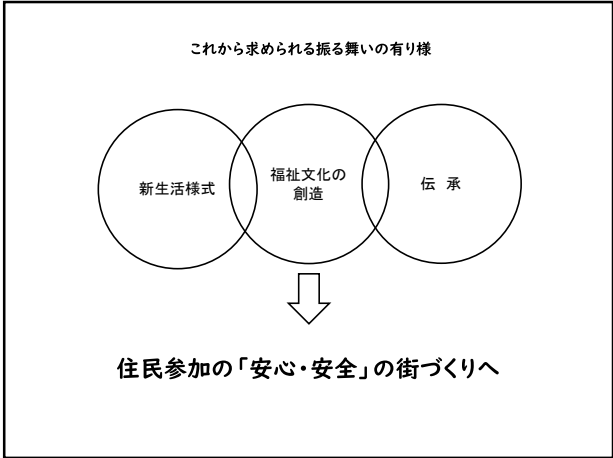
29

**震災から10年を経たの学びを生かす**

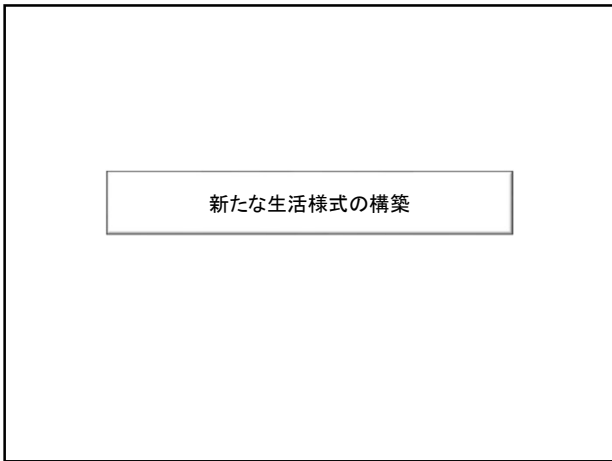
これから求められる振る舞いの有り様

27

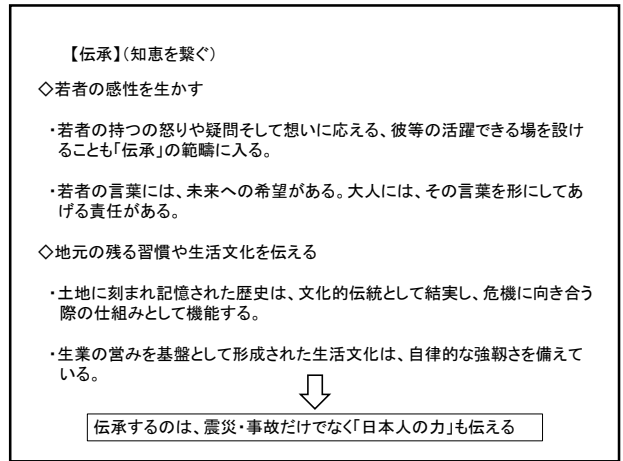
27



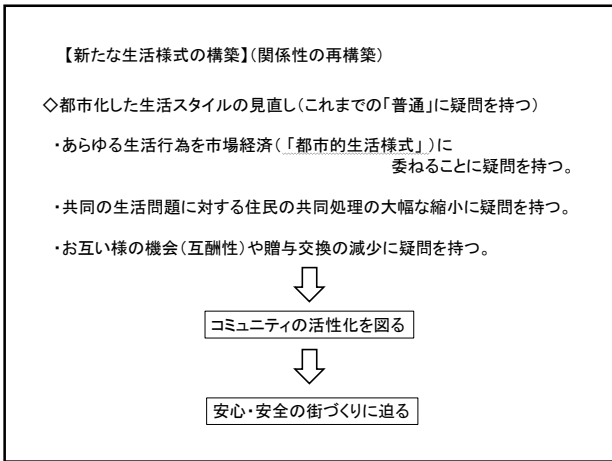
30



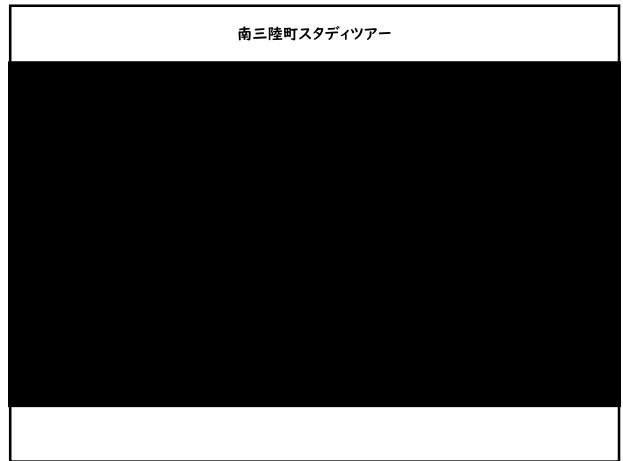
31



34



32



35



33



36



37

サワコの朝 (MBS毎日放送) 風にいえば

サワコ朝

今、心にひびく曲

↓

地域に貢献する志を持つ学生へ、地域福祉に取り組む皆さんへのエール

40

福祉文化の創造

38

小田和正「今日もどこかで」(2008(平成20)年)

気づかないうちに 助けられてきた 何度も何度もそしてこれからも  
 数え切れない やさしさに 出会ってきた なつかしい笑顔が 浮かんでは 消えてゆく  
 誰かが いつも 君を見ている 今日もどこかで 君のこと 想ってる  
 巡り会って そして 愛し合って 許し合って 僕らは つながってゆくんだ  
 透きとおる 光が 分け隔てなく すべての人たちに 朝を運んでくる  
 その一歩を もうためらわないで 誰かがきつと 受け止めてくれる  
 いちどきりの 短いこの人生 どれだけの人たちと 出会えるんだろう  
 ほんとうに 大切な人たちと かけがえのない その人 この広い空の下で  
 降り続く雨は やがて上がる かくれてた 青い空は どこまでも 広がってゆく  
 誰かが いつも 君を見ている 今日もどこかで 君のこと 想ってる  
 巡り会って そして 愛し合って 許し合って 僕らは つながってゆくんだ

41

【福祉文化の創造】(学びの一般化)

- ◇新たな資源の創出(あるものを生かして使い切る)
  - ・見立て力を研ぎ澄まして資源の発掘
  - ・既存資源を加減乗除(かげんじょうじょ)でリニューアル
- ◇地域共生社会の構築
  - ・おたがい様の社会の一般化
  - ・関係人口を増やす(人口減少社会・限界集落化対策)
  - ・新たな居場所づくり(脱病院のサロン化・選択肢の多様化)
  - ・社会的居間づくり(災害公営住宅「集会所」の活性化)

↓

地域の魅力(物・人・環境)の再開発

39

自己選択・自己決定を支えてくれた人々

42

直近の10年、私は三人の女性に支えられました。  
 この方々にお礼を言って最終講義を締め括ります。

43



43

46



44

### 「ハチドリの一とすずく」

<b>森が燃えていました</b>	The forest was on fire.
<b>森の生き物たちはわれ先にとにげていきました</b>	All of the animals, insects and birds in the forest rushed to escape.
<b>でもクリキンディという名のハチドリだけはいったりきたり</b>	But there was one little hummingbird named Kurikindi, or Golden Bird, who stayed behind.
<b>くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落としていきます</b>	This little bird went back and forth between water and fire, dropping a single drop of water from its beak onto the fire below.
<b>動物たちがそれを見て「そんなことしていったい何になるんだ」といって笑います</b>	When the animals saw this, they began to laugh at Kurikindi. "Why are you doing that?" they asked.
<b>クリキンディはこう答えました</b>	And Kurikindi replied,
<b>「私は、私にできることをしているだけ」</b>	"I am only doing what I can do"

出典 注 信一監修「ハチドリの一とすずく」光文社 2005.11  
 (南アメリカ(エクアドル)の先住民に伝わるハチドリの物語)

47

<b>Go to the people</b>	<b>人々の中へ)</b>
Go to the people live among them learn from them	人々の中へ行き 人々の中に生き 人々から学びなさい
start with what they know build on what they have	人々が知っていることから始め 人々が持っているものの上に築きなさい
teach by showing learn by doing	やってみせることで教え 自らもその過程から学びなさい
not a showcase but a pattern not odds and ends but a system	出来合いのものではなく いかにそれを作るかを重視しなさい
not relief but release of the best leaders	中途半端なものではなく システムを作りなさい
when their task is accomplished the people all remark	助けてあげるのではなく 人々の解放を目指しなさい
<b>"We have done it ourselves"</b>	最高の指導者と共に、仕事を終えたとき 人々は口々に言うでしょう <b>「私達が自分でやり遂げたのだ。」</b>

45

45



48



た だ

河 野 進

もっとも大切なものは みな ただ

太陽の光

野や山の緑

雨や川の水

朝夕のあいさつ

神への祈り

そして 母の愛

49

振り返って改めて考えてみると、

自己選択・自己決定は、自分一人ではなし得ない行為で、

他者からの支援があって、初めて成り立つ。

他者との『関わり合い向かい合い』が、唯一無二の自己を形成し、

そうした自己によってのみ、自己選択・自己決定を成せる。



他者との「関わり合い向かい合う」ことで、

形成される多様な「自己」。

これらの自己の支え合いは、新たな地平を拓き、

新たな生活文化(地域共生社会)を

つくる事が出来るようになるのではないだろうか。

50



雅号 早坂雄峯 富谷市成田在住  
筆

長い間ご支援頂き有り難うございました。

51

51